



# ウガンダW-BRIDGEモデル構築に向けた調査研究

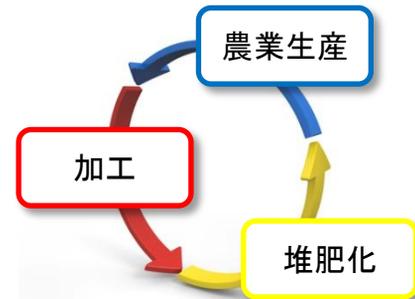
マケレレ大学 / ネイチャリング財団



## ウガンダにおける環境保全型農業(自然循環型農業)サイクルの確立

### 背景と目的

- ◆ウガンダは急速な経済成長を遂げており、20年で人口も倍増しているが、就業人口の約77%は農業従事者であるにもかかわらず、第一次産業のGDP構成比は約23%であり、1人当りの農業生産額は極めて低い現状である。
- ◆日本の農業技術導入と農業を担う人財の育成により、環境保全型農業(自然循環型農業)システムを構築することで、自給自足的農業から脱皮し、農産物の高付加価値化及び農業を基軸とした産業振興を図る。



### 活動内容

- ◆イガンガ県の5村落訪問による農業生産実態ヒアリング調査
  - ↓
  - ◇農家は現金収入が少なく、生活は困窮しており、装飾品や余剰野菜の販売で僅かな副収入を得ている現状にある。
- ◆「ウガンダ農業人財養成プログラム」による自然循環型農業の実証実験
  - ↓
  - ◇第1期研修生が多収量品種のカボチャで実践研修中であり、5/31現在順調に進捗している。(2014/9/22修了予定)
- ◆発酵技術を活用したボカシ肥料製造と食品加工の研究
  - ↓
  - ◇微生物の活動が活発で、発酵は日本の3倍以上の速度で進み、発酵に適した環境である。



カラル村のコーヒー農園



コーヒー豆アクセサリ制作風景



第1期研修生



講義風景



ボカシ肥料製造風景



余剰野菜の糠漬試作

### 今後の展開

「ウガンダ農業人財養成プログラム」による実証実験を継続し、収穫までの1サイクルが完了した時点で評価・分析を行い、環境保全型農業(自然循環型農業)の確立を目指す。また、発酵技術を活用した加工の研究を継続し、装飾品については商品開発や販路開拓等の支援により、高付加価値化を追求する。